



江戸の本屋と本づくり

講師 橋口侯之介 (東京神保町「誠心堂書店」店主)

現代のような道具や技術を持たない江戸時代、本はどのように作られ、売られていたのでしょうか。また、当時の人々にとって本はどのような存在だったのでしょうか。

神保町にある古書店「誠心堂書店」の店主で、江戸時代の本事情に精通されている、橋口侯之介さんをお招きし、当時の様子を学ぶとともに、現代に通じる日本人の書物観を探ります。

2017 / 10/1 日 無料

13:30 ~ 15:30 / 会場 13:00

塩尻市市民交流センター(えんぱーく)

3階 多目的ホール / 定員 60 名(先着順)

9月4日(月) 申し込み開始

申し込み方法

本館総合カウンター、お電話 (0263-53-3365)、Eメールのいずれかでお申し込みください。

Eメールの場合は、次の内容をお送りください。

- ・宛先 tosho@city.shiojiri.lg.jp
- ・件名 「10/1本の寺子屋申し込み」
- ・本文
 1. 参加者全員の氏名(フリガナ)、
 2. 代表者電話番号
 3. お住まいの地区
 4. この講演会を知ったきっかけ(新聞、広報など)

講師プロフィール

橋口 侯之介 (はしぐち こうのすけ)



東京・神田で和本・書道の専門店を営む「誠心堂書店」の店主。四十年の経験ですっかり和本の世界に魅かれ、この世界をぜひ伝えたいと成蹊大学・上智大学などで教鞭をふるっている。

主な著書に、『和本入門—千年生きる本の世界』(平凡社、2005年)、『江戸の本屋と本づくり—続和本入門』(平凡社ライブラリー、2011年)、『和本への招待—日本人と書物の歴史』(角川選書、2011年)など。



当日は橋口さんの著書の販売とサイン会もあります